



小笠原村立母島小中学校

教育目標

母島を誇りに思い、共によりよい社会を築くことのできる人間を目指し、自ら困難を乗り越え、思いやりをもって心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成を図る。

- (1) 意欲的に学ぶ児童・生徒
- (2) 自らきたえる児童・生徒
- (3) 社会のために尽くす児童・生徒



児童・生徒数

児童数 28 名 生徒数 13 名 (令和 6 年 4 月 現在)

住所 〒100-2211 東京都小笠原村母島字元地

電話 04998-3-2181/2182 FAX 04998-3-2184

HP <http://www.hahashouchu.ogasawara.ed.jp/>

母島で教え、教わる

東京から約一〇〇〇キロメートル南の小笠原諸島、そこに母島があります。竹芝桟橋からおがさわ丸で父島へ、そこからはいじま丸に乗り継ぐ二航海。母島に着くには二十六時間ほどの時間が必要です。母島が近づく中で目にする光景が心に焼きつき、忘れられないものになることでしょう。ボニンブルーと呼ばれる海の色、島の木々の鮮やかな色合いが作り出す景色。母島の教員としての生活はこの環境の中から始まります。

ここで、子供たちとかかわり、日々の生活を送る中で大切なものを教わっているような気がします。この経験は教員として、かけがえないものとなるはずです。



令和六年度赴任者の声

母島の子供たちの印象は？



母島ならではの良さ、

仕事でやりがいを感じる時は

どんな時ですか？

素直に何事にも一生懸命に取り組む印象です。学校行事では学年や性別にとらわれず、全員で参加する姿は見ていて元氣が出てきます。

島全体で子供を受け入れる雰囲気の中で、のびのびとしています。学校内でも、放課後や休日でも、学年関係なく偶然居合わせた仲間と自然に楽しむ姿は母島ならではの印象です。

元氣いっぱい挨拶してくれる明るい子供たちばかりです。学年の隔たりなくみんな仲が良いなと思います。

教員数は少ないので、一人一人の役割は多くなりますが、その分やりがいも大きくなります。小中学校の教員が協力して働けるのも新鮮な体験で、今後の教員人生に必ずプラスになると思います。



令和5年度 令和6年度小笠原村小中一貫教育研究推進指定校

(令和7年2月7日(金) 研究発表会)

- ☆基礎学力向上のための、少人数指導の工夫
- ☆総合的な学習の時間を活用した小笠原学習

ー母島小中学校ではこんな先生方を求めていますー

- 母島小中学校が目指す教育を理解し、力を尽くしてくれる先生
- 情熱にあふれ、向上心があり、心身ともに健康な先生
- 子供たちはもとより、地域とのかかわりを大切にしてくれる先生

島での生活は大変ですか？

住めば都と感じます。ふだん使っている店や商品がなくても、一か月もすれば無くなることが当たり前に感じて気にならなくなりました。ライフラインは十分に整っているの、不便さを強く感じたことはありません。

朝早く、鳥の声で目が覚める生活がとても新鮮です。健康的な生活を送っています。